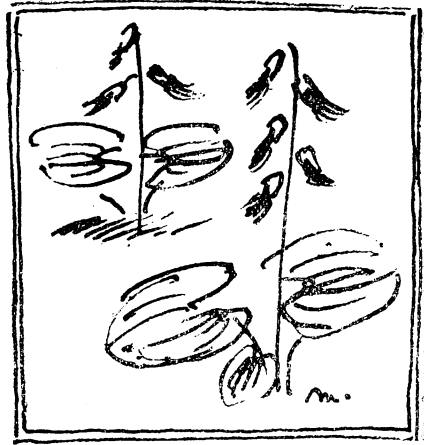


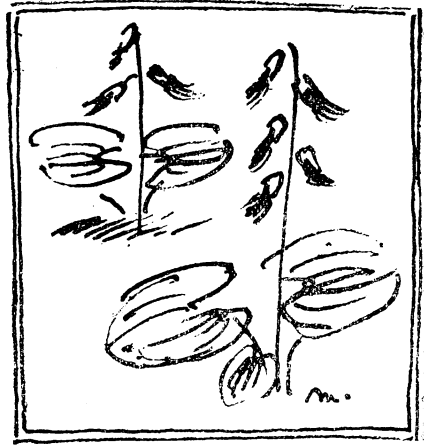


二人の母親

田 山 花 袋

赤い布をかけた時分のことか脈々と思出されて、言ふに言はれないなつかしさを感じた。多い友達の中ては、一番よく出来て、自分などは傍にも寄りつけなかつた人ではあるけれども、かうして年を隔てて逢つて見ると、おまさは何か口を利いて見たいやうな氣がした。

おまさは昔の友達のを目送した。友達も矢張自分と同じやうに、男の兒を伴れて來てゐたが、何かその兒に言ひかけたり、背の高い女と話し合つたり、大勢男の兒達の集つてゐる方を覗いて見たりした。鹿の出ない束髪に、茶色がゝつたお召の羽織を着て、黒縹子と縮緬の腹合せの帯をしめて、餘り派手でない扮装をしてゐた。高い背、鋭敏な眼、厚い唇、年こそ取つてゐるけれど、その時分と少しも變らない友達をおまさは見た。

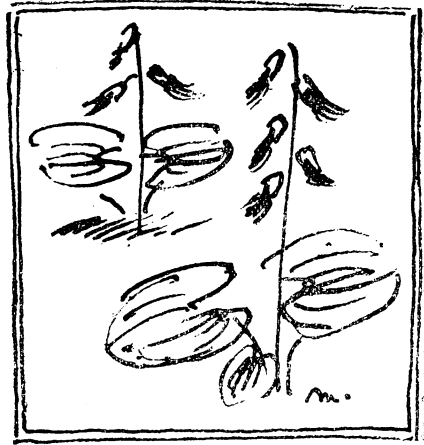


二人の母親

田 山 花 袋

赤い布をかけた時分のことか脈々と思出されて、言ふに言はれないなつかしさを感じた。多い友達の中ては、一番よく出来て、自分などは傍にも寄りつけなかつた人ではあるけれども、かうして年を隔てて逢つて見ると、おまさは何か口を利いて見たいやうな氣がした。

おまさは昔の友達のを目送した。友達も矢張自分と同じやうに、男の兒を伴れて來てゐたが、何かその兒に言ひかけたり、背の高い女と話し合つたり、大勢男の兒達の集つてゐる方を覗いて見たりした。鹿の出ない束髪に、茶色がゝつたお召の羽織を着て、黒縹子と縮緬の腹合せの帯をしめて、餘り派手でない扮装をしてゐた。高い背、鋭敏な眼、厚い唇、年こそ取つてゐるけれど、その時分と少しも變らない友達をおまさは見た。

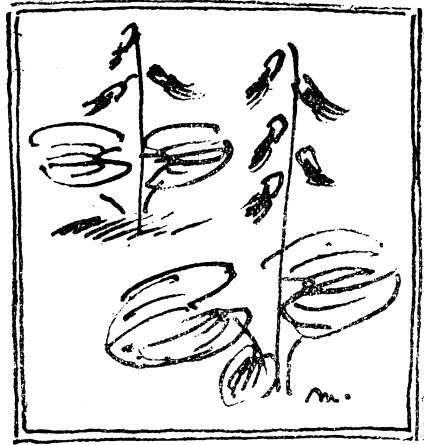


二人の母親

田 山 花 袋

赤い布をかけた時分のことか脈々と思出されて、言ふに言はれないなつかしさを感じた。多い友達の中ては、一番よく出来て、自分などは傍にも寄りつけなかつた人ではあるけれども、かうして年を隔てて逢つて見ると、おまさは何か口を利いて見たいやうな氣がした。

おまさは昔の友達のを目送した。友達も矢張自分と同じやうに、男の兒を伴れて來てゐたが、何かその兒に言ひかけたり、背の高い女と話し合つたり、大勢男の兒達の集つてゐる方を覗いて見たりした。鹿の出ない束髪に、茶色がゝつたお召の羽織を着て、黒縹子と縮緬の腹合せの帯をしめて、餘り派手でない扮装をしてゐた。高い背、鋭敏な眼、厚い唇、年こそ取つてゐるけれど、その時分と少しも變らない友達をおまさは見た。

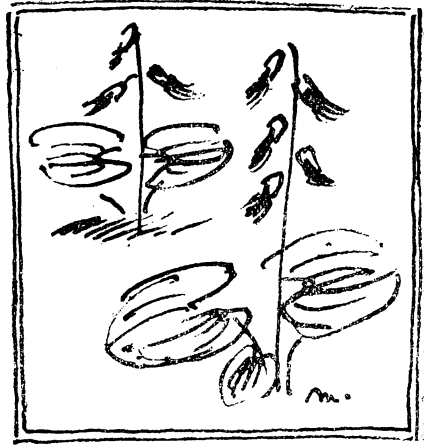


二人の母親

田 山 花 袋

赤い布をかけた時分のことか脈々と思出されて、言ふに言はれないなつかしさを感じた。多い友達の中ては、一番よく出来て、自分などは傍にも寄りつけなかつた人ではあるけれども、かうして年を隔てて逢つて見ると、おまさは何か口を利いて見たいやうな氣がした。

おまさは昔の友達のを目送した。友達も矢張自分と同じやうに、男の兒を伴れて來てゐたが、何かその兒に言ひかけたり、背の高い女と話し合つたり、大勢男の兒達の集つてゐる方を覗いて見たりした。鹿の出ない束髪に、茶色がゝつたお召の羽織を着て、黒縹子と縮緬の腹合せの帯をしめて、餘り派手でない扮装をしてゐた。高い背、鋭敏な眼、厚い唇、年こそ取つてゐるけれど、その時分と少しも變らない友達をおまさは見た。

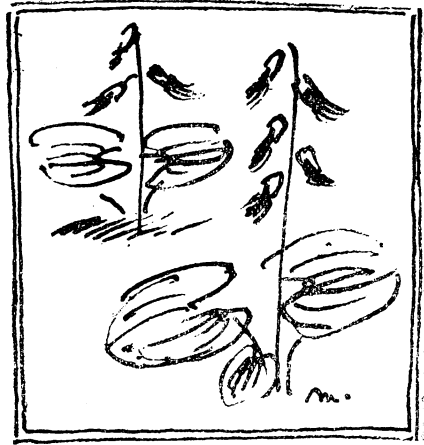


二人の母親

田 山 花 袋

赤い布をかけた時分のことか脈々と思出されて、言ふに言はれないなつかしさを感じた。多い友達の中ては、一番よく出来て、自分などは傍にも寄りつけなかつた人ではあるけれども、かうして年を隔てて逢つて見ると、おまさは何か口を利いて見たいやうな氣がした。

おまさは昔の友達のを目送した。友達も矢張自分と同じやうに、男の兒を伴れて來てゐたが、何かその兒に言ひかけたり、背の高い女と話し合つたり、大勢男の兒達の集つてゐる方を覗いて見たりした。鹿の出ない束髪に、茶色がゝつたお召の羽織を着て、黒縹子と縮緬の腹合せの帯をしめて、餘り派手でない扮装をしてゐた。高い背、鋭敏な眼、厚い唇、年こそ取つてゐるけれど、その時分と少しも變らない友達をおまさは見た。

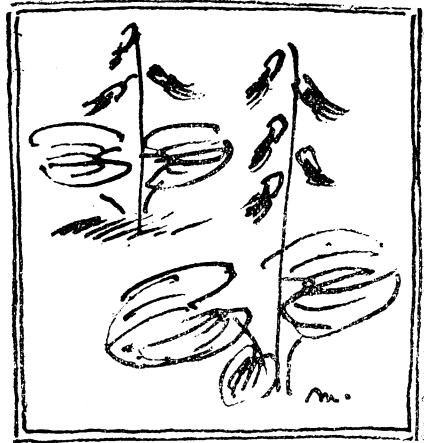


二人の母親

田 山 花 袋

赤い布をかけた時分のことか脈々と思出されて、言ふに言はれないなつかしさを感じた。多い友達の中ては、一番よく出来て、自分などは傍にも寄りつけなかつた人ではあるけれども、かうして年を隔てて逢つて見ると、おまさは何か口を利いて見たいやうな氣がした。

おまさは昔の友達のを目送した。友達も矢張自分と同じやうに、男の兒を伴れて來てゐたが、何かその兒に言ひかけたり、背の高い女と話し合つたり、大勢男の兒達の集つてゐる方を覗いて見たりした。鹿の出ない東髪に、茶色がゝつたお召の羽織を着て、黒縹子と縮緬の腹合せの帯をしめて、餘り派手でない扮装をしてゐた。高い背、鋭敏な眼、厚い唇、年こそ取つてゐるけれど、その時分と少しも變らない友達をおまさは見た。

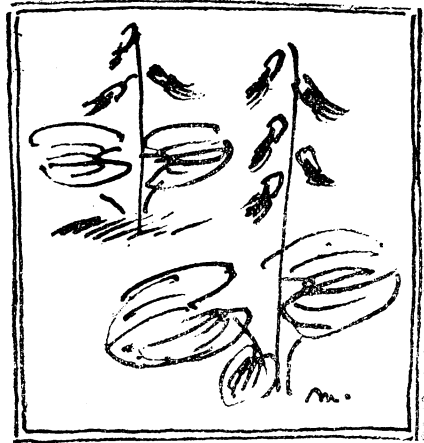


二人の母親

田 山 花 袋

大勢おほぜいの中でちよつと顔かほを見合みあせた時ときから、おまさは「田上たがみさんだな」と思おもつた。と、無邪氣むじゃきで遊あそんだ小學校せうがくかうの庭にはや、唐人髷たうじんまげに結ゆつて赤い布あかきれをかけた時分じぶんのことが脈々みやくと思出おもいだされて、言いふに言いはれないなつかしさを感かんじた。多い友達おほいたちの中うちは、一番ばんよく出で來きて、自分じぶんなどは傍そばにも寄よりつけなかつた人ひとではあるけれども、かうして年としを隔へだてて逢あつて見みると、おまさは何か口くちを利きいて見みたいやうな氣きがした。

おまさは昔むかしの友達ともだちの姿すがたを目送めくそうした。友達ともだちも矢張やはじ自分じぶんと同じやうに、男おとこの兒こを伴つれて來きてゐたが、何かその兒こに言いひかけたり、背せの高い女おんなと話はなし合あつたり、大勢男おほぜいおとこの兒達こたちの集あつてゐる方ほうを覗のぞいて見みたりした。鹿ひきの出でない束髪そくはつに、茶色ちやいろがゝつたお召めしの羽織はおりを着きて、黒緇くろじゆ子すと縮緬ちりめんの腹合はらあはせの帶おびをしめて、餘あまり派手はででない扮装なりだてをしてゐた。高い背せ、鋭敏えいびんな眼め、厚あつい唇くちびる、年としこそ取とつてゐるけれど、その時分じぶんと少しも變かへらない友達ともだちをおまさは見みた。

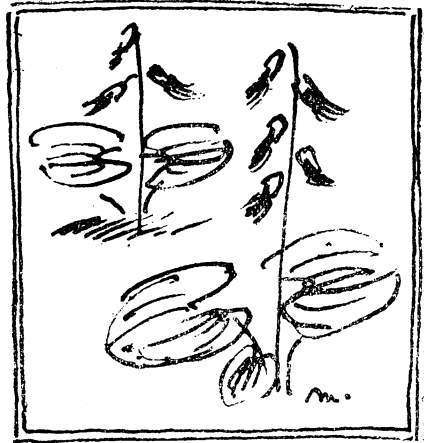


二人の母親

田 山 花 袋

大勢おほぜいの中でちよつと顔かほを見合みあせた時ときから、おまさは「田上たがみさんだな」と思おもつた。と、無邪氣むじゃきで遊あそんだ小學校せうがくかうの庭にはや、唐人髷たうじんまげに結ゆつて赤い布あかきれをかけた時分じぶんのことが脈々みやくと思出おもいだされて、言いふに言いはれないなつかしさを感かんじた。多い友達おほいたちの中うちは、一番ばんよく出で來きて、自分じぶんなどは傍そばにも寄よりつけなかつた人ひとではあるけれども、かうして年としを隔へだてて逢あつて見みると、おまさは何か口くちを利きいて見みたいやうな氣きがした。

おまさは昔むかしの友達ともだちの姿すがたを目送めくそうした。友達ともだちも矢張やはじ自分じぶんと同じやうに、男おとこの兒こを伴つれて來きてゐたが、何かその兒こに言いひかけたり、背せの高い女おんなと話はなし合あつたり、大勢男おほぜいおとこの兒達こたちの集あつてゐる方ほうを覗のぞいて見みたりした。鹿ひきの出でない束髪そくはつに、茶色ちやいろがゝつたお召めしの羽織はおりを着きて、黒緇子くろじゆすと縮緬ちぢめんの腹合はらあはせの帶おびをしめて、餘あまり派手はででない扮装なりだちをしてゐた。高い背せ、鋭敏えいびんな眼め、厚あつい唇くちびる、年としこそ取とつてゐるけれど、その時分じぶんと少しも變かへらない友達ともだちをおまさは見みた。

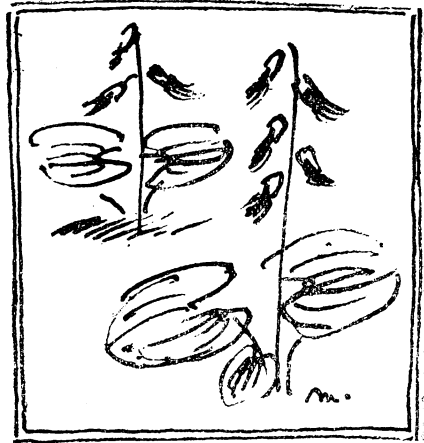


二人の母親

田 山 花 袋

大勢おほぜいの中でちよつと顔かほを見合みあせた時ときから、おまさは「田上たがみさんだな」と思おもつた。と、無邪氣むじゃきで遊あそんだ小學校せうがくかうの庭にはや、唐人髷たうじんまげに結ゆつて赤い布あかきれをかけた時分じぶんのことが脈々みやくと思出おもいだされて、言いふに言いはれないなつかしさを感かんじた。多い友達おほいたちの中うちは、一番ばんよく出で來きて、自分じぶんなどは傍そばにも寄よりつけなかつた人ひとではあるけれども、かうして年としを隔へだてて逢あつて見みると、おまさは何か口くちを利きいて見みたいやうな氣きがした。

おまさは昔むかしの友達ともだちの姿すがたを目送めくそうした。友達ともだちも矢張やはじ自分じぶんと同じやうに、男おとこの兒こを伴つれて來きてゐたが、何かその兒こに言いひかけたり、背せの高い女おんなと話はなし合あつたり、大勢男おほぜいおとこの兒達こたちの集あつてゐる方ほうを覗のぞいて見みたりした。鹿ひきの出でない束髪そくはつに、茶色ちやいろがゝつたお召めしの羽織はおりを着きて、黒緇くろじゆ子すと縮緬ちりめんの腹合はらあはせの帶おびをしめて、餘あまり派手はででない扮装なりだてをしてゐた。高い背せ、鋭敏えいびんな眼め、厚あつい唇くちびる、年としこそ取とつてゐるけれど、その時分じぶんと少しも變かへらない友達ともだちをおまさは見みた。

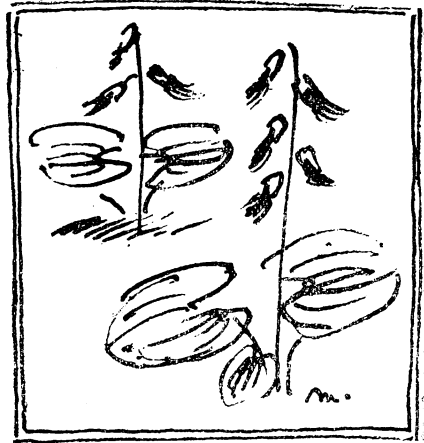


二人の母親

田 山 花 袋

大勢おほぜいの中でちよつと顔かほを見合みあせた時ときから、おまさは「田上たがみさんだな」と思おもつた。と、無邪氣むじゃきで遊あそんだ小學校せうがくかうの庭にはや、唐人髷たうじんまげに結ゆつて赤い布あかきれをかけた時分じぶんのことが脈々みやくと思出おもいだされて、言いふに言いはれないなつかしさを感かんじた。多い友達おほいたちの中うちは、一番ばんよく出で來きて、自分じぶんなどは傍そばにも寄よりつけなかつた人ひとではあるけれども、かうして年としを隔へだてて逢あつて見みると、おまさは何か口くちを利きいて見みたいやうな氣きがした。

おまさは昔むかしの友達ともだちの姿すがたを目送めくそうした。友達ともだちも矢張やはじ自分じぶんと同じやうに、男おとこの兒こを伴つれて來きてゐたが、何かその兒こに言いひかけたり、背せの高い女おんなと話はなし合あつたり、大勢男おほぜいおとこの兒達こたちの集あつてゐる方ほうを覗のぞいて見みたりした。鹿ひきの出でない束髪そくはつに、茶色ちやいろがゝつたお召めしの羽織はおりを着きて、黒緇子くろじゆすと縮緬ちぢめんの腹合はらあはせの帶おびをしめて、餘あまり派手はででない扮装なりだちをしてゐた。高い背せ、鋭敏えいびんな眼め、厚あつい唇くちびる、年としこそ取とつてゐるけれど、その時分じぶんと少しも變かへらない友達ともだちをおまさは見みた。

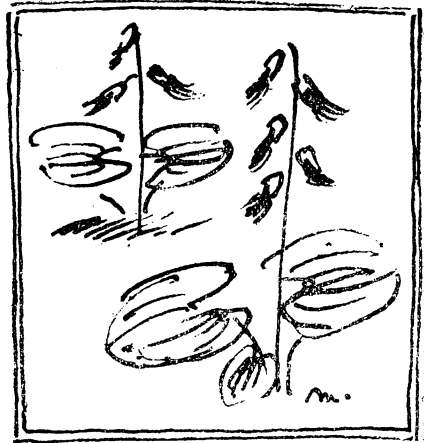


二人の母親

田 山 花 袋

大勢おほぜいの中でちよつと顔かほを見合みあせた時ときから、おまさは「田上たがみさんだな」と思おもつた。と、無邪氣むじゃきで遊あそんだ小學校せうがくかうの庭にはや、唐人髷たうじんまげに結ゆつて赤い布あかきれをかけた時分じぶんのことが脈々みやくと思出おもいだされて、言いふに言いはれないなつかしさを感かんじた。多い友達おほいたちの中うちは、一番ばんよく出で來きて、自分じぶんなどは傍そばにも寄よりつけなかつた人ひとではあるけれども、かうして年としを隔へだてて逢あつて見みると、おまさは何か口くちを利きいて見みたいやうな氣きがした。

おまさは昔むかしの友達ともだちの姿すがたを目送めくそうした。友達ともだちも矢張やはじ自分じぶんと同じやうに、男おとこの兒こを伴つれて來きてゐたが、何かその兒こに言いひかけたり、背せの高い女おんなと話はなし合あつたり、大勢男おほぜいおとこの兒達こたちの集あつてゐる方ほうを覗のぞいて見みたりした。鹿ひきの出でない束髪そくはつに、茶色ちやいろがゝつたお召めしの羽織はおりを着きて、黒緇くろじゆ子すと縮緬ちりめんの腹合はらあはせの帶おびをしめて、餘あまり派手はででない扮装なりだてをしてゐた。高い背せ、鋭敏えいびんな眼め、厚あつい唇くちびる、年としこそ取とつてゐるけれど、その時分じぶんと少しも變かへらない友達ともだちをおまさは見みた。

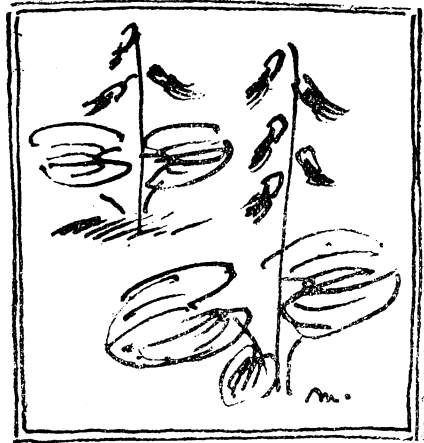


二人の母親

田 山 花 袋

大勢おほぜいの中でちよつと顔かほを見合みあせた時ときから、おまさは「田上たがみさんだな」と思おもつた。と、無邪氣むじゃきで遊あそんだ小學校せうがくかうの庭にはや、唐人髷たうじんまげに結ゆつて赤い布あかきれをかけた時分じぶんのことが脈々みやくと思出おもいだされて、言いふに言いはれないなつかしさを感かんじた。多い友達おほいたちの中うちは、一番ばんよく出で來きて、自分じぶんなどは傍そばにも寄よりつけなかつた人ひとではあるけれども、かうして年としを隔へだてて逢あつて見みると、おまさは何か口くちを利きいて見みたいやうな氣きがした。

おまさは昔むかしの友達ともだちの姿すがたを目送めくそうした。友達ともだちも矢張やはじ自分じぶんと同じやうに、男おとこの兒こを伴つれて來きてゐたが、何かその兒こに言いひかけたり、背せの高い女おんなと話はなし合あつたり、大勢男おほぜいおとこの兒達こたちの集あつてゐる方ほうを覗のぞいて見みたりした。鹿ひきの出でない束髪そくはつに、茶色ちやいろがゝつたお召めしの羽織はおりを着きて、黒緇子くろじゆすと縮緬ちぢめんの腹合はらあはせの帶おびをしめて、餘あまり派手はででない扮装なりだてをしてゐた。高い背せ、鋭敏えいびんな眼め、厚あつい唇くちびる、年としこそ取とつてゐるけれど、その時分じぶんと少しも變かへらない友達たちをおまさは見みた。

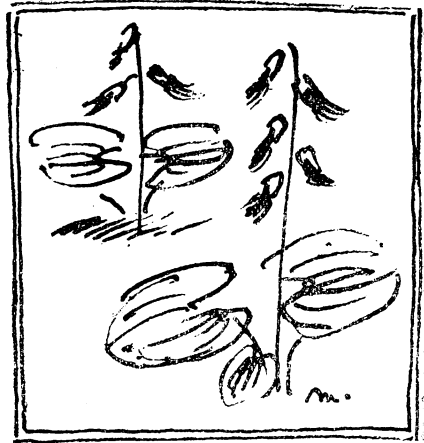


二人の母親

田 山 花 袋

大勢おほぜいの中でちよつと顔かほを見合みあせた時ときから、おまさは「田上たがみさんだな」と思おもつた。と、無邪氣むじゃきで遊あそんだ小學校せうがくかうの庭にはや、唐人髷たうじんまげに結ゆつて赤い布あかきれをかけた時分じぶんのことが脈々みやくと思出おもいだされて、言いふに言いはれないなつかしさを感かんじた。多い友達おほいたちの中うちは、一番ばんよく出で來きて、自分じぶんなどは傍そばにも寄よりつけなかつた人ひとではあるけれども、かうして年としを隔へだてて逢あつて見みると、おまさは何か口くちを利きいて見みたいやうな氣きがした。

おまさは昔むかしの友達ともだちの姿すがたを目送めくそうした。友達ともだちも矢張やはじ自分じぶんと同じやうに、男おとこの兒こを伴つれて來きてゐたが、何かその兒こに言いひかけたり、背せの高い女おんなと話はなし合あつたり、大勢男おほぜいおとこの兒達こたちの集あつてゐる方ほうを覗のぞいて見みたりした。鹿ひきの出でない束髪そくはつに、茶色ちやいろがゝつたお召めしの羽織はおりを着きて、黒緇くろじゆ子すと縮緬ちりめんの腹合はらあはせの帶おびをしめて、餘あまり派手はででない扮装なりだてをしてゐた。高い背せ、鋭敏えいびんな眼め、厚あつい唇くちびる、年としこそ取とつてゐるけれど、その時分じぶんと少しも變かへらない友達ともだちをおまさは見みた。



二人の母親

田 山 花 袋

大勢おほぜいの中でちよつと顔かほを見合みあせた時ときから、おまさは「田上たがみさんだな」と思おもつた。と、無邪氣むじゃきで遊あそんだ小學校せうがくかうの庭にはや、唐人髷たうじんまげに結ゆつては、一番ばんよく出で來きて、自分じぶんなどは傍そばにも寄よりつけなかつた人ひとではあるけれども、かうして年としを隔へだてて逢あつて見みると、おまさは何か口くちを利きいて見みたいやうな氣きがした。

おまさは昔むかしの友達ともだちの姿すがたを目送めくそうした。友達ともだちも矢張やはじ自分じぶんと同じやうに、男おとこの兒こを伴つれて來きてゐたが、何かその兒こに言いひかけたり、背せの高い女おんなと話はなし合あつたり、大勢男おほぜいおとこの兒達こたちの集あつてゐる方ほうを覗のぞいて見みたりした。鹿ひきの出でない束髪そくはつに、茶色ちやいろがゝつたお召めしの羽織はおりを着きて、黒緇子くろじゆすと縮緬ちぢめんの腹合はらあはせの帶おびをしめて、餘あまり派手はででない扮装なりだちをしてゐた。高い背せ、鋭敏えいびんな眼め、厚あつい唇くちびる、年としこそ取とつてゐるけれど、その時分じぶんと少しも變かへらない友達ともだちをおまさは見みた。